

CPUトラフィックを監視するためのEEMサブシステム

内容

[概要](#)

[しきい値を超えて制限を下回ったときにCPU使用率を監視するようにEEMスクリプトを設定する方法](#)

[解決方法](#)

[上昇しきい値](#)

[下限しきい値](#)

[確認](#)

概要

このドキュメントでは、CPUトラフィックを監視するためにCisco IOS Embedded Event Manager(EEM)サブシステムを使用する方法について説明します。

しきい値を超えて制限を下回ったときにCPU使用率を監視するようにEEMスクリプトを設定する方法

解決方法

`ip access-list log-update threshold`は、すべてのアクセスコントロールリスト(ACL)ログをログに記録しますが、同時に、より多くのCPUを使用します。

EEMを設定する手順：

1. CPUの上限しきい値を超えた場合は、`#ip access-list log-update threshold 1`コマンドを無効にして、すべてのACLのロギング処理を停止します。
2. 設定されたCPUの下限が次に低下した場合は、この`#ip access-list log-update threshold 1`コマンドを有効にして、すべてのACLのロギング処理を開始します。

たとえば、CPUが60 %を超え、20 %を下回った場合にEEMをトリガーする必要があります。

1. CPU使用率が ≥ 5 秒で60 %を超えると、上昇しきい値のsyslog通知が発行されます。
2. CPU使用率が ≥ 5 秒で20 %を下回ると、下降syslogしきい値通知が発行されます。

上昇しきい値

CPU使用率しきい値の上昇は、設定された期間に超過したときにCPUしきい値通知をトリガーするCPUリソースの割合を指定します。

下限しきい値

下降CPU使用率しきい値は、CPU使用率が設定された期間にこのレベルを下回ったときにCPUしきい値通知をトリガーするCPUリソースの割合を指定します。

イベントマネージャアプレット (syslogメッセージと一致) は、上昇しきい値syslogメッセージを無視します。これは、下降syslog threshold → "SYS-1-CPUFALLINGTHRESHOLD"にのみ一致し、アクションを実行します。これは、syslogメッセージが問題になるたびに発生します。

- CPUが60 %を超えて残っている場合は、syslogメッセージが1つだけ生成されます。
- CPUが20 %未満で廃棄され、残っている場合は、syslogメッセージが1つだけ生成されます。

確認

(conf)#process cpu threshold type total rising 60 interval 5 falling 20 interval 5

1. CPUがしきい値の60を超えると、SYS-1-CPURISINGTHRESHOLD syslogパターンを生成し、コマンドを無効にします。

イベントマネージャアプレットHIGH_CPU

event syslog pattern "SYS-1-CPURISINGTHRESHOLD"

action 1.0 cliコマンド 「enable」

action 2.0 cliコマンド 「config t」

action 3.0 cliコマンド 「no ip access-list log-update threshold 1」

*Oct11 19:21:11.983:%SYS-1 -CPURISINGTHRESHOLD:Threshold : 合計CPU使用率 (合計/受信) :63% / 19%

2. CPUが上限の20を下回ると、SYS-1-CPUFALLINGTHRESHOLD syslogパターンが生成されるため、次のコマンドが有効になります。

イベントマネージャアプレットLOW_CPU

event syslog pattern "SYS-1-CPUFALLINGTHRESHOLD"

action 1.0 cliコマンド 「enable」

action 2.0 cliコマンド 「config t」

action 3.0 cliコマンド 「ip access-list log-update threshold 1」

*Oct11 19:21:31.983:%SYS-1-CPUFALLINGTHRESHOLD:Threshold : 合計CPU使用率 (合計/入力) 12 %/0 %